

名所・旧跡

大陸と日本本土の間、玄界灘に浮かぶ吉岐の島は、東西15キロ、南北17キロのまるい平坦な島。ここには神々がすみ森と黒潮がはこんでくる豊かな海、そしてひとびとが慈しみ育む大地がある。

清石浜(くよしはま)海水浴場

SPOT 05

芦辺港の南東に広がる約500mの美しい砂浜が清石浜である。シーズンオフにはサーフィンやバードウォッチング、ビーチコーミングなども楽しめる。

吉岐風土記の丘

SPOT 08

歴史散策公園。敷地内には江戸時代中期の様式の古民家を建築復元。管理棟には市内にある遺跡からの出土品を展示している。

ツインズビーチ

SPOT 04

塩樽(しおたる)海水浴場と小水浜(こみずはま)海水浴場を合わせてツインズビーチと呼ぶ。小さな入江にある美しい砂浜の海水浴場。

辰ノ島

SPOT 07

弓状の浜辺は遠浅の白い砂浜で美しく、観光客には人気が高い。海浜植物群落や蛇ヶ谷など見所も多い。

岳ノ辻

SPOT 03

標高212.8m。吉岐島で一番高い山。約20万年前、玄武岩溶岩流の上に噴出した火砕屑物によって形成された火山砕屑丘(かざんさいせつきゅう)。

鬼の足跡

SPOT 06

吉岐を代表する景観で、地元では大鬼のデイが鯨をすくい捕るために踏ん張ってきた足跡で「鬼の足跡」と呼ばれている。

06



07



08



02

吉岐安国寺

SPOT 02

1338年(暦応元)足利尊氏と直義は、平和祈願と元寇以来の戦死者の菩提を弔うため、全国66ヶ国と2島に安国寺建立を命じた。吉岐では従来あった海印寺を安国寺にあてた。開山は京都南禅寺の禅師無隠元晦(むいんげんかい)である。「師子窟(ししくつ)」の額が掛かる仏殿は、二重屋根の重厚な建築物。室町時代の貴重な宝物が多く、なかでも高麗版大般若経は国の重要文化財で、境内の一角にある宝物展示館で見ることができる。また、境内のスギの巨木が目玉。



09

男嶽(おんだけ)神社の石猿群

SPOT 09

猿田彦命(さるとひこのみこと)が祭神。拝殿横の石段には200体が超す石猿が並んでいる。



10

筒城浜

SPOT 10

海岸線の全長およそ600mで吉岐を代表する海水浴場。白砂青松の美しい浜は、日本古来の自然美を残した海岸風景で絶景である。



11

蛇ヶ谷(じゃがたに)

SPOT 11

勝平層の垂直節理が波によって浸食されて広がり、数10mの断崖になっている。辰ノ島海水浴場とは対照的に、男性的でダイナミックな風景である。



12

鬼の窟(いわや)古墳

SPOT 12

6世紀後半~7世紀前半頃の築造。直径45m、高さは13m。内部は大きな玄武岩を幾つも積み上げた横穴式。

住吉神社

SPOT 13

祭神は底筒男神(そこつつおのみかみ)中筒男神、表(うわ)筒男神、相殿に八千弋神(やちほこのかみ)で、明治4年、国幣中社に列格。

春一番の塔

SPOT 14

1859年(安政6)春一番より地元の漁師53名が遭難した。昭和62年、郷ノ浦港入口の元居公園に、船の帆をイメージした「春一番の塔」が建てられた。

国分寺跡

SPOT 15

1738年に中野郷の阿弥陀堂と合し、「国分寺」と改名。現在は数個の礎石が残る空き地になっている。

金蔵寺(こんぞうじ)の銅造如来形坐像

SPOT 16

右手は親指と中指を捻じ、左手は親指と薬指を捻じるという特殊な印を結んでいる。像高73.4cmの高麗仏。渡来金銅仏の優品である。

文永の役新城古戦場

SPOT 18

千人塚の中央に元寇殉国忠魂塔が建ち、左脇には観音像、右脇に本来の千人塚の標石である自然石が2基ある。

元寇の礎石(いかりいし)

SPOT 19

左京鼻沖で発見された。中国製の礎石を使っているが、日本軍の船の礎石ではないかともいわれている。いまは少貳(しょうじ)公園にある。花崗岩(かこうがん)製。

杵枝芦辺風力発電所

SPOT 20

年間平均風速6m/s以上の風が吹く杵枝は、風の島。島の北岸に大陸からの海風を利用した風力発電所がある。

左京鼻

SPOT 21

海糞(うみう)のおびただしい浜に覆われているが、遠目には武骨な玄武岩が化粧を施したように美しい。

はらぼげ地蔵

SPOT 22

六地蔵は六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天)において衆生の苦患を救うという六種の地蔵である。海女(あま)で有名な八幡浦の海中に祀られている。

月読(つくよみ)神社

SPOT 23

京都の月読神社は、487年、杵枝の県主(あがたぬし)の先祖忍見宿禰(おしみのすくね)が杵枝から分霊したもので、ここが神道の発祥の地とされる。

万葉公園

SPOT 24

眼下には道新羅使一行が入港した印通寺港や雪連宅満(ゆきのむらじやかまろ)の墓地のある丘、弥生時代の環濠集落跡である原の辻遺跡などが見える。

湯ノ本温泉郷

SPOT 25

杵枝島北西岸、美しい島々に夕日に映える風光明媚な温泉郷。現在の泉源数17ヶ所、泉温は69℃、泉質はナトリウム塩化物温泉。

22



23



24



25

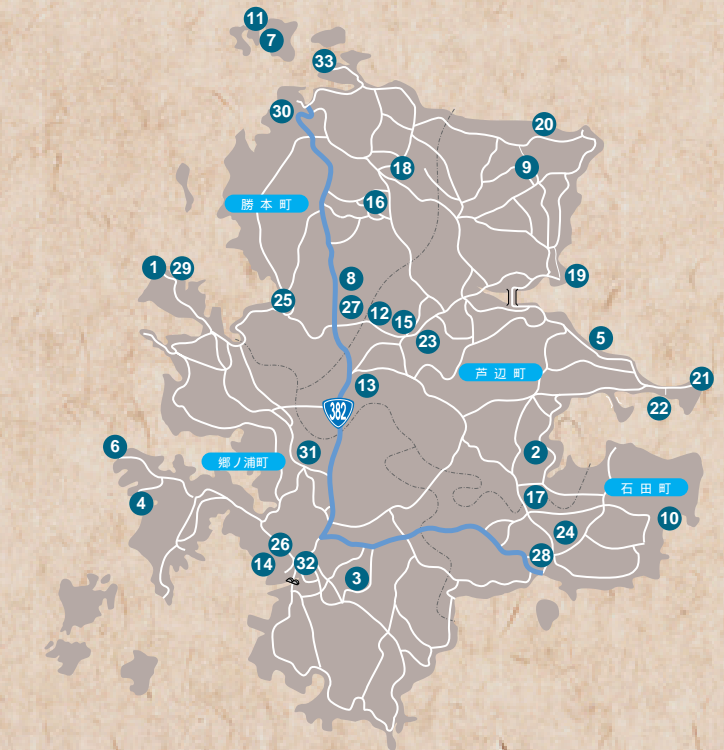


17

原の辻遺跡

SPOT 17

紀元前3世紀から紀元4世紀にかけて形成された大規模な多重環濠集落で、芦辺町と石田町にまたがる台地上を中心に、東西・南北ととも約1km四方に広がっている。平成7年、原の辻遺跡は『魏志倭人伝』の中の「一支国」の王都と特定された。発掘調査途中のため、古代史を書き換えるような発見が相次いでいる。平成12年に弥生時代のものとしては国内3ヶ所目の国特別史跡に指定。



26

ステゴドン象の化石

SPOT 26

昭和46年、流紋岩(りゅうもんがん)が露出した海岸でステゴドン象の化石が発掘された。化石は杵枝郷土館に展示してある。



27

掛木古墳

SPOT 27

6世紀末～7世紀前半の築造。円墳で、墳丘の直径は約30m。県下で唯一の「くり抜き式家形石棺」を持つ古墳として有名。



28

松永記念館

SPOT 28

「日本の電気王」・「電力の鬼」と称された松永安左衛門の功績を伝えるために、生家跡に建設。生前愛用した所持品や文書などが展示されている。



29

黒崎砲台跡

SPOT 29

口径41cmのカノン砲2門の砲台で砲身の長さ18.83m、弾丸の重さ1t、最大射程距離約35km。一発も実弾を発射することがなかった。

勝本城跡

SPOT 30

1591年(天正19)豊臣秀吉が朝鮮出兵にそなえて平戸藩主松浦宗信(まつらむねのぶ)に命じて築城させたもの。海拔78.9mの山頂部に築城。国指定の史跡。

祥雲寺(しょううんじ)の山門

SPOT 31

明治42年に建立。石工は地元の茶屋本初蔵(ちややもとはつぞう)、44歳の時の作である。初蔵はこの他にも住吉神社の石垣、水神社の石灯籠など優れた仕事を残している。

国津意加美(くにつおがみ)神社

SPOT 32

境内の狛犬(玉倉獅子・子抱獅子の一對)は杵枝の名工・山内利兵衛(やまうちりへい)の傑作といわれている。1862年(文久2)献納。利兵衛63歳の時の作。

串山海水浴場

SPOT 33

勝本港の東海岸にある。磯あそびとして開放された(有料)磯物の宝庫・根島も隣接する。